校長室だより～燦燦～ №３１６

素晴らしい人生を送る

2021.3.9

私たちは、戦前の思想統制の反動から、人間はいかなる思想をもつことも自由であるといわれ、人間としてあるべき考え方や生き方について教えられることがほとんどありませんでした。

そのために、どのような考え方をもって生きようと自由であり、自分の人生は誰からの制約も受けずに自分の思うがままに過ごしていきたいと考えるようになりました。たしかに、現在の自由な社会ではどのような考え方をもとうとも自由であり、それは尊重されなければならないでしょう。

しかし、人生に対する考え方により、人生の結果が大きく変わることを、私たちは理解しなくてはなりません。苦労を厭（いと）い、人生をおもしろおかしく過ごそうとした人や、世をすね、不平不満をもち、一生を過ごした人と、高い目標をもち、それに向かって明るく前向きに、一生懸命努力を重ねてきた人の人生とのあいだには、大きな差が生じてしまうのです。

どのような考え方をもって人生を歩もうと自由なのですが、その考え方によって人生の様相がまったく異なったものになってしまう。つまり「素晴らしい人生を送る」にはそれにふさわしい考え方があり、それはどのようなものなのかということを、私たちは知る必要があると思うのです。そして、たとえ自分のささやかな経験に基づくものであっても、そのような考え方を、青少年を含め人生を真摯に生きようとする人々に説くことができればと考えます。

これは、『稲盛哲夫の哲学 人は何のために生きるのか』の「まえがき」にある文章である。私は、まえがきの文章が好きである。ここには、筆者が言いたいこと、伝えたいことのエッセンスが詰まっている。大抵の読者は、最初のページ、つまりはまえがきから読む。したがって、小説の冒頭と同様に、筆者は最もエネルギーを使い、精魂込めて文章を練るはずである。まえがきを読み、「よし、この先も読もう」となってほしいと願っているはずである。

さて、皆さんは、素晴らしい人生を送っているだろうか。慌ただしい日常に追われて、普段は、こんなことを考えないかもしれない。しかし、ふと立ち止まって、たまには考えてみるのもいい。質問を変える。皆さんは、今までの人生に後悔はあるだろうか。「我が人生に悔いなし」とは、なかなかいかないものである。以前、何かの本で読んだことがある。今が充実していれば、今までのことを後悔したりはしない。後悔することがあるということは、今が充実していないということだ。

教員の皆さんは、教員になってよかったと思っているだろうか。もっと別の人生があったかもしれないと思うことはないだろうか。我々は教員なので、児童生徒によく「何になりたい？」と聞くことがある。では、「どんな生き方をしたい？」「どんな人生を歩みたい？」と聞くことはあるだろうか。「適性」と称して、「〇〇が向いている」という話をすることもあるだろう。

しかし、教員の多くは、教員のことしかわからないのではないだろうか。にもかかわらず、あたかも他の職業を知っているかのように話すことがある。危険である。教員の驕り高ぶりである。そもそも「教員の常識は世間の非常識」であると思った方がよい。進路指導という言葉があるが、これから明るい未来が待っている児童生徒に対しては、常に、誠実に、謙虚でありたい。